会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進　①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回事業推進委員会 |
| 開催日時 | 令和5年10月20日（金）15:00～17:00 |
| 場所 | リファレンス西新宿大京ビル貸会議室 |
| 出席者 | 委　　員：五十部　昌克、林　宏治（OL）、稲永　由紀（OL）、菊田　薫、冨田　伸一郎（OL）、松本　晴輝、氏部　正（OL）、沖　直彦（OL）、谷　昌一（OL）、山根　大助（OL）、鈴木　弘明、松田　義弘（OL）岡村　慎一　　　　　　　　　　　　　　　　計13名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計14名 |
| 議題等 | ⚪︎中期計画策定及び職業教育のマネジメントに関する調査（五十部）・資料に基づき現在視察が決定している学校などについて報告。・大学基準協会などについてはどのようになっているのか（菊田）・共済事業団・基準協会などについては、中計の計画の立て方などが聞きたい。（五十部）・経営情報センターあたりに聞くことが良いのではないか（菊田）・中期計画を中心にどのようなアドバイスをしているのかを聞くのが有効だと思う。（菊田）・大学基準協会、評価機構等については学校に対する手引きのようなものをもらうのが早いと感じている。（岡村）・現在の想定にプラスして東北電子専門学校とKBC学園についてはプラスしていきたい。また、他に増やす学校があればSlackに投稿していただきたい。（五十部）・ヒアリング調査報告【中央動物総合専門学校】（五十部）・ヒアリング調査結果報告に沿って説明・報告書のイメージは、この資料に乗っ取って作成して欲しい。・目標の明確化、現状分析、期間の設定、資源の確保、実行可能性、モニタリングと評価等の項目について質問してきた。・具体的には、ペーパーの内容をご確認ください。・報告書提出前には原稿確認をしていただく。・中期計画の作成は1年半ほどかけて行なっている。・数値目標は、具体化していないが、バランススコアーカードを利用して評価を行なっている。・中期計画の定例会を月1回開催している。・ボトムアップで中期計画を策定できたことが好印象。・仕事が増えてしまうことがネックと考えていることや組織等の設計が今後の課題。・達成度評価に関しては、今後検討していく予定。・中計策定のガイドライン作成は、大変ありがたい。・私学振興課から学校関係者評価は2度行うよう指導を受けていたようだ。・鈴木学園はボトムアップ。愛知学園はトップダウンで中期計画を作って要ることが印象に残った。中期計画の意味づけが重要であると感じている。中期計画と法人との関係性などにも違いがあると考えている。（山根）・自己点検評価の簡易モデルを実践していたので、ありがたいと感じた。やはり、ボトムアップでの計画策定は特徴的だと感じた。（五十部）【名古屋美容専門学校】・調査目的は、鈴木学園と同一です。・自己点検評価表は、かなり古いものを使っていたと感じている。・また、いろいろな評価はされているが、やりっぱなし感があった気がする。・学園全体としてのPDCAを回すような形にはなっていなかった気がする。・中期計画はトップダウンで行っている。1サイクルは5年計画。理事長が策定してボトムに流す形となっている。・KPIは4つ。（後日情報が届く予定）・KPIの達成最も重要な評価。・法人としての中期計画は立てているが学校ごとの計画は見当たらなかった。・先生が美容師であるためにPDCAが回っていない感じがした。技術的な面にはこだわりがあるが経営的にはいかがなものかと感じた。（松本）・分野によって、対応が迅速な学校とそうでない学校に区分される気がした。中期計画を教職員から募ったところ計画するほどの意見が現場から出てこなかった。（山根）・調査対象校の規模はどの程度か？（松田）・名古屋は160定員なので300強。大学と高等学校、中学校の併設している。（五十部）・1校目は基本方針として、生き残りと基礎力の確立がテーマとなっていたが、2校目はよくわからなかった。また、計画は理解したが改善計画が理解できなかった（松田）・基本方針があるのかないのかは確認項目として入れてほしい。また、ヒアリングをするときには内容を確認後に公開するということをつげるべきである。（林）・鈴木学園が1年半かけて中期計画を立てたと聞いているが、かなり長い気がする。当校では半年程度で作成している。（谷）・項目を増やすのもいいが、もっと深掘りするというのもいいのではないか（冨田）・ヒアリングにいく前にポイントを絞ることは良いこと（五十部）⚪︎自己点検・評価表等改訂版作成（五十部）・学校によって事情が違う。自校の強みをどのように評価するのかを入れることは重要ではないか。改善がうまくいった事例などは収集して盛り込んでほしい。（氏部）・自己点検評価表に落とし込む際にはとのように落とし込めばいいのかについて意見はありませんか。鈴木学園はエビデンスを入れていくことが重要と聞いてた。これは重要ではないかと感じている。（五十部）・中期計画は、安定的に教育活動を行うための礎であることとして位置付けられている。なので、エビデンスは必要である。職業教育的な中期計画はどうあるべきかが重要だと思う。5年計画は専門学校二渡って長すぎると思う。（岡村）・点検評価の見直しと中期計画のガイドラインは別物と考えている。点検評価はやってるかやっていないかレベルである。ガイドラインに詳細は入れ込むべきである。もう少し、フレキシブルに判断できる形がいい気がします。修業年限自体が長期化する可能性もあるので幅広に考えていくことが重要だと考える。（菊田）・文科省は職業実践専門課程をベースに点検評価表を作っていく形を考えている。評価機構は、別のことになっているのでその辺りは擦り合わせてから作るべきである。（菊田）・それぞれの学校の強みを入れられるような工夫を入れていくのが良いと思う。それが自己点検の真骨頂である。（菊田）⚪︎学校関係者評価委員会運用見直しのための調査（五十部）・学校関係者評価が有用であるということ明確化することが重要だと考えている。回数の問題ではなく、質の話が重要だと考える。人事なども含めて考えるべき。そもそも、文科省は第3者評価的なポジションを自主的に組織化してほしいと思っている。そのことを調べららどうか。（菊田）・学校関係者評価とはどのような組織なのかを提起することが重要ではないか。教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会の違いなども明確にする必要がある。（岡村）・学校関係者評価と第3者評価の関係性を明確化しておくのは重要。一定の枠を作り第3者評価を努力義務化が必要となる可能性がある。（菊田）・三菱総研が学校関係者評価を機能させるためにどうしたらいいのかを検討している。課題を明確化することが重要ではないかと考える。（林）⚪︎その他・アンケート調査については、最終結果が公開されていない。（飯塚）・次回委員会は、12月１日14：00～16：00　東京にてハイブリッド |
| 配布資料 | ・第3回事業推進委員会資料・職業教育マネジメント、中期計画ヒアリング結果 |

以上